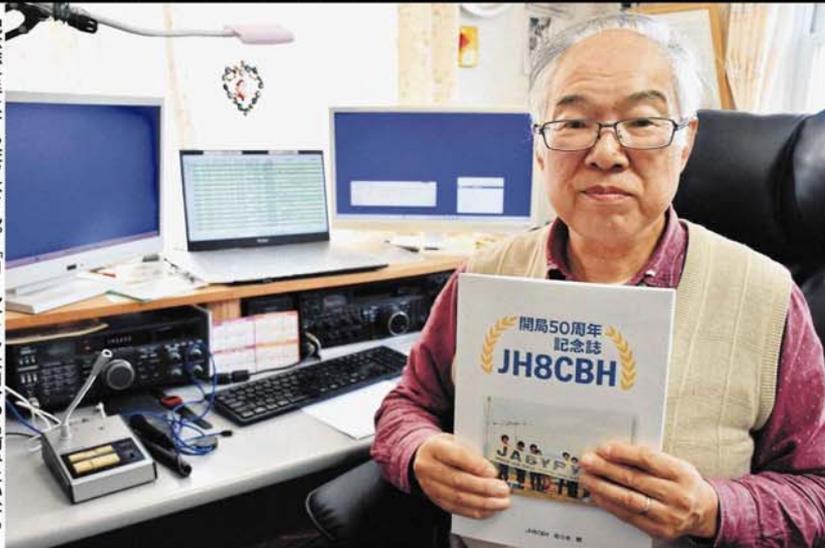


記念誌を手にする佐々木さん。「コールサインは自分の名前みたいなもの。世界に一つしかないです」



JH8CBH 函館の佐々木さん

「CQ CQ、こちらJH8CBH」一。函館市銭亀町の佐々木朗さん(65)は、中学3年のころアマチュア無線を始め、今年で50年を迎えた。自身のこれまでを振り返り、レポートや写真などでまとめた「開局50周年記念誌 JH8CBH」を制作した。佐々木さんは「これからの時代の人に『こんな生き方もあるんだ』と伝える機会があればうれしい」と話す。

アマ無線50周年 歩みを記念誌に

佐々木さんは、1975年に電話級アマ無線技士となり、以降電信級、第2級を経て97年に第1級を取得した。元教員で「書くことは嫌いではない」といい、11月から記念誌執筆に着手し、「一気に書き上げたという。無線との出会いや開局、教員時代の思い出を、無線の取り組みなどにもつづる。また、全国の無線仲間からの寄せられたメッセージや、無線に関わるレポートなども多数掲載した。

佐々木さんは毎日、無線で日本各地や海外とも交信している。「初めての方に会ったり、お天気の話から入って、どんな街な

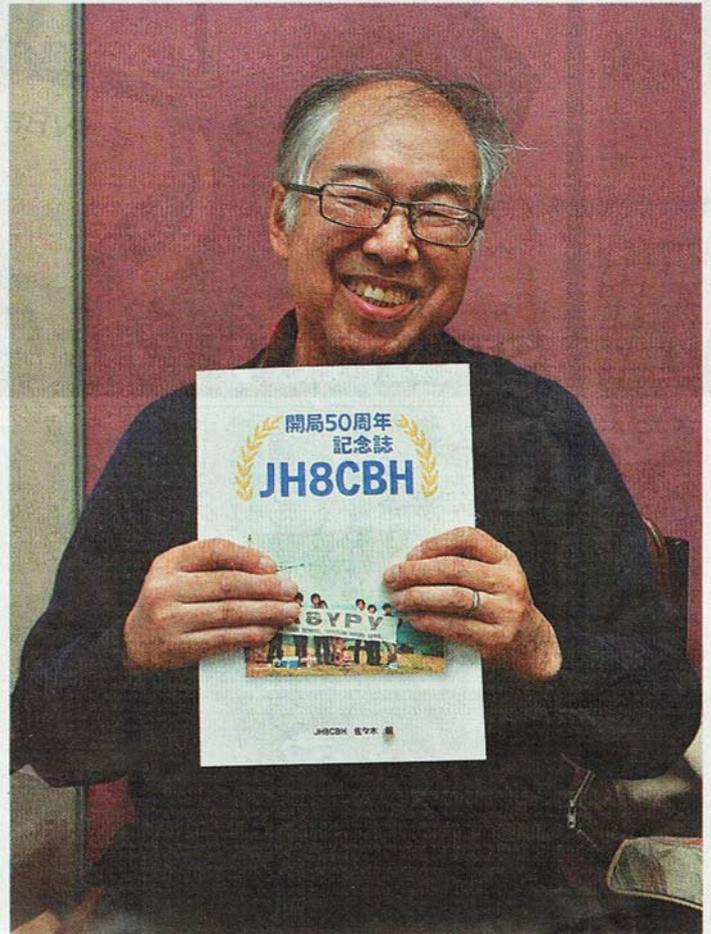
アマチュア無線 音声またはモールス符号などを用いて交信を楽しむ。かつては「趣味の王様」と呼ばれ、1970年代には、海外放送を受信しレコードを集める「BCU」とともに大ブームに。95年には国内136万局とピークを迎えたが、高齢化や新規参入が減少し、2024年には35万局を下回っている。

「次世代に楽しさ伝えたい」

のか尋ねたり。特定の仲間だけでなく、広く浅く仲間ができたことが長続きの秘訣かな。魅力になっていると思います」
無線は、法令改正で無資格者でも資格者の指導の下、体験運用ができるようになった。初級(4級)の免許は函館でも2日間の講習会で取得可能で、小学生の合格実績もある。佐々木さんは日本アマチュア無線連盟渡島檜山支部長も務め、子どもたちに科学の目を育て、もの作りの楽しさを伝えるラジオ作り教室なども長年続けている。
「自分の作ったラジオから音が鳴る感激を子どもたちに伝えたい。ラジオ作りから無線の資格を取った人もいて、どこから芽が出るかわからない。子どもたちの笑顔が見たくて支部の伝統行事になっています」
また、「無線は災害時にも有効だと検証されている」という。「(スマートフォンやネットで)ラインなどが通じないことがあっても、電波ではどこでどんな人が困っているのか情報が入ってくる。災害時に備えて電池を満杯にしておくなど、何かあった時に強化できるようにしています」
50年の節目を迎え、ひとつのけじめとして制作した記念誌。「今やっていることは、小さい頃の経験が原点になっています。自分で楽しむこと、この楽しさを次の世代に伝えていきたいですね」
A4判、148頁。問い合わせは佐々木さん、090・8277・9744へ。
(塚麻那)

アマ無線50周年 魅力を記念誌に

日本アマチュア無線連盟渡島松山支部長の佐々木朗さん(65)は、函館市銭亀町に、自身がアマチュア無線を始めて今年で50年を迎えたのを機に、「開局50周年記念誌 JH8CBH」をこのほど自费出版した。国内外の人々と電波でつながって半世紀。「いろいろな人とおしゃべりができる、無線の楽しみを次の世代に伝えたい」と話している。(千葉卓陽)



「楽しさを次世代に伝えたい」

函館出身の佐々木さんは1975(昭和50)年、中学3年で電話級アマチュア無線技士の資格を取得し、コールサイン「JH8CBH」を開局。以降、電信1級を経て97年に第1級を取得した。アマチュア無線の部活動が当時盛んだったことから旧函館東高

アマチュア無線開局50周年記念誌を出版した佐々木さん

佐々木さん「JH8CBH」出版

を進学先に選び、道教育大卒業後は日高管内を振り出しに渡島、松山で教員を勤め上げ、赴任地でも自宅にアンテナを立ててやりとりを続けた。50年の節目に「交信証を作ろうかとも考えたが、もともと物を書くのが好き」と、1カ月半ほどで一気に入稿した。全国の交信仲間から寄せられたメッセージや、2021年の北海道・東北北縄文遺跡群の世界遺産登録を記念した特別局設置の取り組みなど活動レポートもふんだんに盛り込んだ。現在も毎日、国内や海外との交信を続けており、無線の魅力は「不確実性」と語る。「きょう電波がなかったら、明日つながる保障はない。アンテナの向きや周波数を変えたり、自由に工夫できるのが面白い」というのが理由だ。21年に同支部の支部長に就任。昨年再任され、若い世代に無線を知ってもらうためのイベントを精力的に企画。今年8月にモールス符号の体験を軸とした催しでは、参加者の2人が講習会を経て資格を取得した。「我々の世代でも、家において誰ともしゃべらないという人もいるが、アマチュア無線は家にいれば全国の人とつながれる」と強調。「無限の楽しみを伝え、次の世代を育てていくのが、自分を育ててくれた先輩たちに対する恩返しと話している。記念誌は50部ほど作成し、希望者には配布する。問い合わせは佐々木さん(090・8277・9744)へ。

2025/12/24 函館新聞

アマ無線50周年で記念誌 ⑩



日本アマチュア無線連盟渡島松山支部長の佐々木朗さん(65)は、アマチュア無線を始めて今年で50年を迎えたのを機に「開局50周年記念誌 JH8CBH」を自费出版した。